

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会
平成 29 年度 第 4 回情報共有会合議事概要

1. 日時：平成 29 年 12 月 19 日(火) 10:10～11:30

2. 場所：札幌第 1 合同庁舎 10 階第 1 会議室

3. 出席者 34 名

北海道開発局 (7 名)、北海道運輸局 (2 名)、第一管区海上保安本部、北海道地方環境事務所、陸上自衛隊北部方面総監部、北海道 (2 名)、北海道立総合研究機構 (3 名)、札幌市、日本測量協会北海道支部 (2 名)、北海道測量設計業協会、北海道産学官研究フォーラム (2 名)、建設コンサルタンツ協会北海道支部、北海道 G 空間情報技術研究会、Digital 北海道研究会 (2 名)、スペーシャリストの会、Envison 環境保全事務所、北海道大学、国土地理院 (4 名)

4. 議事

- (1) 除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組プラットフォーム
- (2) 現場における CIM・ICT の活用事例
- (3) 第 9 回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会の報告
- (4) 話題提供
- (5) その他

5. 配付資料

- (1) 事務局
 - ・議事次第・出席者名簿
- (2) 発表資料
 - ・除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組プラットフォーム (北海道開発局事業振興部)
 - ・現場における CIM・ICT の活用事例 (北海道産学官研究フォーラム)
 - ・国土地理院の地図等の利用手続き (国土地理院北海道地方測量部)

6. 議事概要

今回の会合は、次の 3 課題の発表を行った。

- (1) 北海道開発局事業振興部より、除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組プラットフォーム (プラットフォームの通称：i-Snow) について、3 月に開催した「第 1 回プラットフォーム」、4 月に開催された「知床峠除雪省力化に向けた意見交換会」の開催状況、自車位置把握や作業装置自動化、安全確認などの具体的な取組の報告があった。他の豪雪地域である東北・北陸地整等と連携しているのか質問があり、同プラットフォームは北海道開発局単独での取組となるが、省全体として除雪の高度化を取り組んでいくと回答

があった。また、除雪車の正確な位置がわかることは除雪だけでなく農業など他の分野でも取り組みを進めているが、今後の動向は如何かと質問があり、様々な分野において政府全体で ICT 化に取り組んでいると回答があった。

(2) 北海道産学官研究フォーラムより、現場における CIM・ICT の活用事例について、CIM を活用した事例と CIM の維持管理を含めた活用における課題、ICT を活用した工事の事例や ICT 土工の現状における課題について報告があった。CIM や ICT 建機の活用による休日の取得状況の変化について質問があり、現場レベルではつかめていないものの、CIM については社内的な協力もあって残業は減っている状況であるが、ICT 土工ではボリュームのある仕事を受注していないので、休日取得への貢献度としてのデータは厳密には出せないと回答があった。

(3) 国土地理院北海道地方測量部より、第 9 回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会の報告を行った。委員等出席者の紹介と話題提供の内容、意見交換の状況等について概要を報告した。

7. その他

第 5 回情報共有会合は、2 月下旬に開催予定。